

都市再生整備計画 事後評価シート
砂沼周辺地区

平成30年3月

茨城県下妻市

様式2-1 評価結果のまとめ

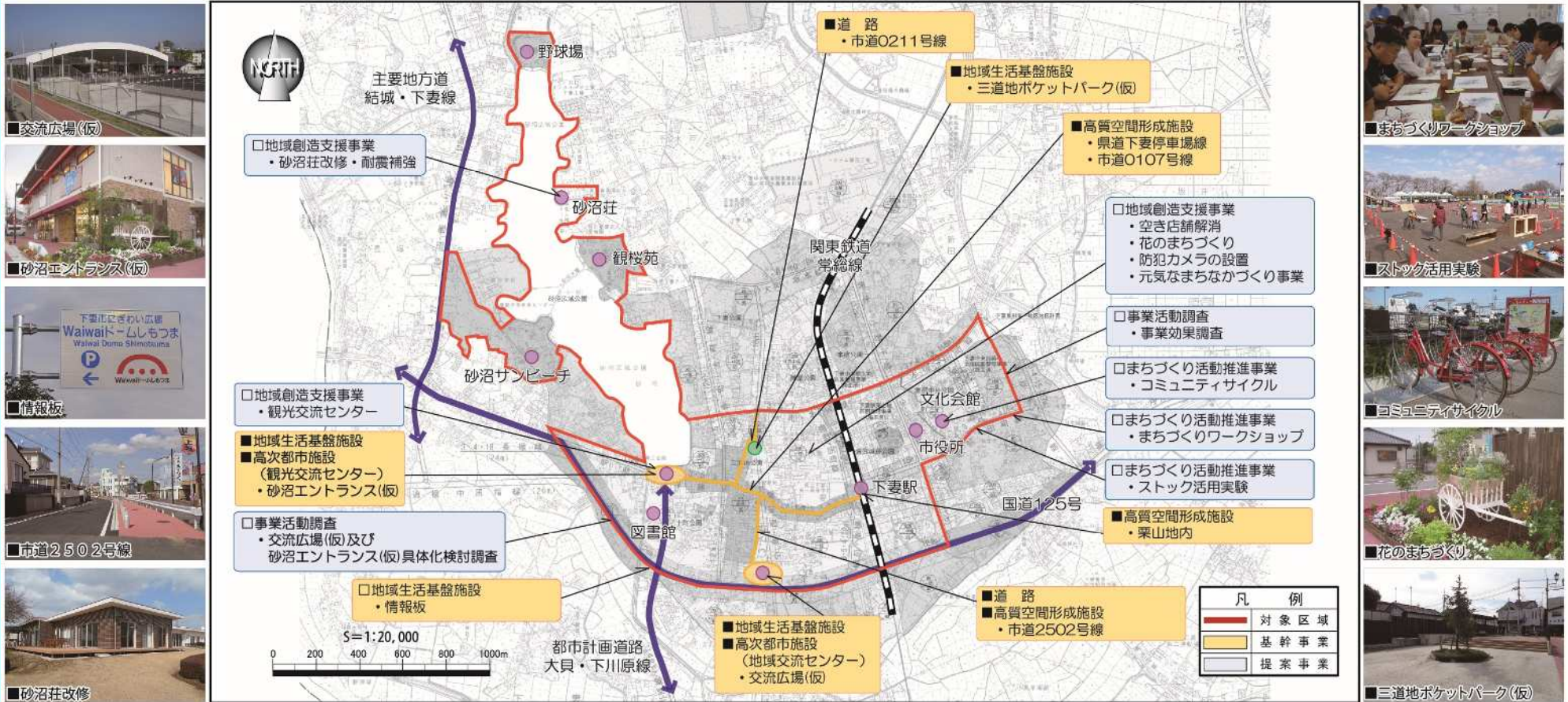
都道府県名	茨城県		市町村名	下妻市		地区名		砂沼周辺地区		面積	130ha		
交付期間	平成24年度～平成28年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	1,332	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	道路(市道0211号線、2502号線)、地域生活基盤施設(広場:交流広場(仮))、地域生活基盤施設(広場:砂沼エントランス(仮))、高質空間形成施設(緑化施設等:新町、三道地、上町、栗山地区)、高質空間形成施設(緑化施設等:県道下妻停車場線、市道0107号線)、空間形成施設(緑化施設等:市道2502号線)、高次都市施設(地域交流センター:交流広場(仮))、高次都市施設(観光交流センター:砂沼エントランス(仮))									
	当初計画から削除した事業		提案事業	地域創造支援事業(空き店舗解消)、地域創造支援事業(花のまちづくり)、地域創造支援事業(防犯カメラ設置)、地域創造支援事業(商店街活動支援)、地域創造支援事業(砂沼荘)、事業活用調査(基本設計・事業効果調査)、まちづくり活動推進事業(コミュニティサイクル)									
			事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	新たに追加した事業		基幹事業	高質空間形成施設(緑化施設等:新町、三道地、上町)		事業内容の精査により当初計画から削除		事業の削除により達成目標に影響を与えるが、目標及び指標は据え置く					
			提案事業	事業活用調査(基本設計)		事業内容の精査により当初計画から削除		事業の削除により達成目標に影響を与えるが、目標及び指標は据え置く					
交付期間の変更		当初			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合見)	予定時期	
	指標1	イベント集客人数	人/年	37,000	H24年度	41,500	H28年度		39,000	あり	イベントの集客人数は目標値を下回っているが、経年の動きをみると近年では増加傾向となっていることから、事業効果は少しずつであるが現われてきている。	平成31年4月	
	指標2	駅からの歩行者数	人/日	325	H24年度	380	H29年度		440	あり	2つの拠点施設(交流広場や砂沼エントランス)をはじめとして、移動環境や手段などの環境整備が進められており、街なかの魅力は高まってきている。		
	指標3	公共施設利用者数	人/年	205,933	H23年度	222,000	H28年度		193,885	あり	下妻駅と街なかを繋ぐ県道下妻停車場線や新たな拠点(交流広場や砂沼エントランス)を結ぶ市道0107号線、2502号線でのカラー舗装化による歩車道分離が図られ、安全な歩行空間及び環境が整備されている。	平成30年4月	
	指標4									あり	あわせて、街なかに交流広場(Waiwaiドームしもつま)と砂沼エントランス(さん歩の駅)の2つが拠点施設として整備され、街なかを利用する多くの人々の交流や憩いの場にもなっている。		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合見)	予定時期	
	その他の数値指標1	砂沼エントランス(仮称)利用者数	人/年	-	-			154,200			拠点施設(さん歩の駅)として整備され、市の物産館と(株)坂東太郎によるカフェの开店により、下妻市及び砂沼を訪れる多くの人々に利用されている。	平成30年4月	
	その他の数値指標2	交流広場(仮称)利用者数	人/年	-	-			68,600			拠点施設(Waiwaiドームしもつま)として整備され、スポーツ広場としての利用をはじめ、多種多様なイベントが開催され、多くの人々に利用されている。	平成30年4月	
4) 定性的な効果発現状況	交流広場(Waiwaiドームしもつま)や砂沼エントランス(さん歩の駅)の2つの拠点、コミュニティサイクル(しもんチャリ)、県道や市道のカラー歩行化などの整備を行い、市民から来訪者の誰もが気軽に利用できる環境(施設利用や休憩等)が整備されたとともに、拠点に繋がる歩行空間や施設間の移動環境が改善されたことにより、地域全体としての魅力の向上につながっている。また、2つの拠点となる交流広場(Waiwaiドームしもつま)や砂沼エントランス(さん歩の駅)での様々なイベントの開催のほか、砂沼エントランス(さん歩の駅)への物産館やカフェなどの开店により、賑わいの場ともなっている。												
5) 実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	指標における目標値の見直し						都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					
	住民参加プロセス	まちづくりワークショップ(全体ワークショップ) まちづくりワークショップ(花壇整備ワークショップ) スクートボードパークワークショップ 子育てハウスワークショップ						都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				全体ワークショップの参加者が中心となって設立されたまちづくり市民グループ「しもつま3高」(shimaimai)等の支援・協力を行っていく。 花壇の維持・管理を行っている団体の活動への支援・協力を行っていく。 施設整備を合わせて設立された「下妻市スクートボード組織設立準備委員会」の活動への支援・協力を行っていく。 施設の利用についてのアンケートやヒアリング等を行い、利用者の意見等を把握しながら改善を図っていく。	
	持続的なまちづくり体制の構築	市民活動グループ「しもつま3高」の設立 女性有志ユニット「shoishimai」の設立						都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後も継続して、まちづくり市民グループ「しもつま3高」を中心に施設・運営を進めていくほか、交流広場(Waiwaiドームしもつま)などを活用したイベントの開催などを進めていく。 継続的な活動を促進していくとともに、活動への支援・協力を行っていく。	

様式2-2 地区の概要

砂沼周辺地区(茨城県下妻市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
'地域の活性化及び市街地再生によるにぎわいのある街づくり'	イベント集客人数	人/年	37,000	H24年度	41,500	H28年度	39,000	H28年度
	駅からの歩行者数	人/日	325	H24年度	380	H29年度	440	H29年度
	公共施設利用者数	人/年	205,933	H23年度	222,000	H28年度	193,885	H28年度

- 目標1 にぎわいの拠点整備による中心市街地の活性化
 目標2 安全・安心で魅力ある移動空間の確保による中心市街地の回遊性の向上
 目標3 中心市街地内外の既存ストックの活用及び連携強化による交流の拡大



まちの課題の変化	交流広場(Waiwaiドームしもつま)や砂沼エントランス(さん歩の駅)、三道地ポケットパークなどの街なかの拠点となる施設が各所に整備され、市民や来訪者における交流や憩い・休息の場となっている。歩道のカラー舗装化により歩車道分離が図られ、安全な歩行空間として確保することができたほか、コミュニティサイクルが配備され、施設間や様々な利用における移動の利便性の向上が図られている。コミュニティサイクル及びサイクルポートが整備され、点在する公共資源を結び自転車ネットワーク化が図られ、各施設間の移動手段が確保されている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	拠点施設でのイベント等の開催による積極的な利用を進めるとともに、施設や活動に関する様々な情報等の発信を行い、街なかの活性化につなげていく。カラー舗装化等による歩車道分離が未整備の路線や区間などの整備を進め、利用する誰もが安全に安心して通行できる道づくりを進める。コミュニティサイクル(しもんチャリ)やコミュニティバス(しもんちゃんバス)等を活かした街なかでの回遊性を高めるとともに、点在する公共資源とを結びネットワーク網の拡充を図る。街なかを回遊する人々が気軽に立ち寄り、利用することができるよう公共資源の施設・設備の充実を図る。拠点施設等でのイベントや街なかを利用する人々に対応できる駐車スペースの確保を図る。